



がん高度実践看護師WG講演会 in Tokushima
2022年度がん看護インテンシブコースⅡ

がん患者のがんリハビリテーションに関するニーズに
応える高度な臨床実践の展開

がんリハビリテーションに対する高度な看護実践



勝島 詩恵 先生 (関西医科大学病院呼吸器腫瘍内科学講座・助教) **13:05～14:05**

「がんリハビリテーションの現状と課題～当院でのリハビリテーション外来の実際～」



三木 恵美 先生 (関西医科大学リハビリテーション学部・准教授) **14:05～15:05**

「在宅がん患者・サバイバーの生活を支えるリハビリテーション

～作業療法士の取り組み～」



徳永 亜希子 先生 (徳島赤十字病院・がん看護専門看護師) **15:05～16:05**

「当院でのがんリハビリテーションにおける高度な看護実践

～周術期から緩和ケア期を中心に～」

2022年7月3日(日)

13:00～16:30

WEB開催

※参加費無料ですが、事前申し込みが必要です
(先着50名様まで)参加〆切6月24日



参加申し込み先：

徳島大学大学院医歯薬学研究部 事務局

メールアドレス：cancer.pro2022@gmail.com

※申込：1.御氏名，2.御所属，3.職種を本文中にご記載の上，メールにてお申込みください。

イラスト：小玉高弘

主催：高知県立大学大学院看護学研究科 徳島大学大学院医歯薬学研究部保健科学教育部
岡山大学大学院保健学研究科 広島大学大学院医系科学研究科 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻

■ 講師紹介

勝島 詩恵先生

久留米大学をご卒業後、2007年より岸和田市民病院、市立堺病院、関西電力病院にて呼吸器内科医として勤務され、大阪市立総合医療センター、関西電力病院にて腫瘍内科医として専門医を取得、一時在宅医として終末期医療にも従事されました。がん患者の治療においては化学療法のみならずリハビリテーションや栄養療法、さまざま社会支援体制の整備が重要であることを実感され、まだエビデンスの少ないがんリハビリテーションを自らのライフワークにしようと決められ、2020年より関西医科大学リハビリテーション医学講座にてがん患者へのリハビリテーションに従事され、7月からは呼吸器腫瘍内科学講座にて精力的にご活躍されています。

所属学会

日本リハビリテーション医学会 日本緩和医療学会 日本内科学会 日本呼吸器学会 日本臨床腫瘍学会

■ 内容

がんの治療と言えば手術や抗がん剤、放射線治療を思い浮かべますが、筋肉量や筋力低下を特徴とするサルコペニアは抗がん治療の毒性や効果、予後にも影響するといわれており、がん治療開始早期からのリハビリテーションは重要となります。しかし、がん患者におけるリハビリテーションはまだ確立した手法はなく、エビデンスも乏しいのが現状です。関西医科大学病院リハビリテーション科では通院治療を行うがん患者に特化したフレイル外来にてリハビリテーションを行い、がん治療早期からのサルコペニアの予防に取り組みされており、フレイル外来でのがんリハビリテーションの臨床実践や効果的・継続的に行うにあたり抱えている課題や問題点についてご講演頂く予定です。

■ 講師紹介

三木 恵美先生

広島大学をご卒業後、1998年より広島県内の病院に作業療法士として入院リハ・訪問リハ・通所リハ(デイケア)をご経験され、2005年より広島大学大学院に進学し、がん・終末期のリハビリテーション、緩和ケアについての研究に取り組み、2007年に保健学修士、2012年に保健学博士を修得されました。2011年には広島大学大学院助教となり、2020年関西医科大学にて准教授として、がん・緩和ケアのリハビリテーションと地域リハビリテーションを専門とした教育・研究に取り組みおられます。

所属学会

日本がんサポーターケア学会 資格取得：認定作業療法士・介護支援専門員

■ 内容

がんの診断・治療の技術向上により、がん治療中～がん治療後を自宅で過ごすがん患者・サバイバーが増加しています。がんや治療の影響による様々な苦痛や生活上の支障を抱えた在宅がん患者・サバイバーのリハビリテーション・ニーズを明らかにし、在宅がん患者さんが必要とする支援が提供できるシステム構築が必要です。がん患者さんの「その人らしい」生き生きとした生活を支援するために、リハビリテーション専門職としてなにができるかを、がん関連認知機能障害・がん関連倦怠感・終末期に焦点を当ててお話ししたいと思います。

■ 講師紹介

徳永 亜希子先生

徳島赤十字病院入職後、2011年に愛知県立大学看護実践センター認定看護師養成課程修了し、がん性疼痛看護認定看護師資格取得され、2019年に徳島大学大学院保健科学教育部博士前期課程修了し、がん看護専門看護師資格取得されております。現在では、徳島赤十字病院にてがんリハビリテーションを多職種と連携しながら元の日常生活に機能も回復、維持出来ることを目標とし、できる限りの自律性が保持できるような援助をリハビリスタッフと連携しながら実践しています。また、徳島大学大学院でも非常勤講師として精力的にご活躍されています。

所属学会

日本がん看護学会

■ 内容

高齢がん患者や様々な併存疾患を持ち合わせている患者が増加する中で、リスク因子を入院時から把握し多職種と連携しながら、入院前の状態に術後も維持回復できるような方法を検討していくことが重要になります。また、クリティカルパスを有効活用できるようにパスに具体的なリハビリテーションを組み込むことは、最終的なゴールを共有することや、がんリハビリテーションの必要性が可視化できます。そのような、具体的な取り組みについてご講演頂く予定です。